

新任保育士の就労継続に向けて

新任保育士として期待される役割や問題解決・職務遂行に必要な知識を学ぶ

近年の保育ニーズの高まりとともに、保育士が不足しています。保育士不足の背景には、制度改正や社会情勢の変化による待機児童の増加が大きな要因としてありますが、命を預かる仕事に対する賃金の低さや、感情労働・対人援助を伴う業務への精神的負担、また、それらを理由とする離職という側面もあるとされています。

岩手県社会福祉協議会が設置する岩手県保育士・保育所支援センター（県委託事業）では、新任保育士として期待される役割について理解を深めるとともに、職場における問題解決や職務遂行に必要な知識を習得し、就業継続のための資質向上を図ることを目的に、「新任保育士（就業継続支援 研修会）」を開催しました。10月12日にふれあいランド岩手で行われた研修会には、経験年数3年程度の保育士21名が参加。新任保育士・保育所に求められている役割や、リアリティショック等について事例を交えた講義で学び、保育士としての決意を新たにしました。なお、本研修会は動画配信式でも開催され、75名の新任保育士が受講しました。

以下に、講義の概要をご紹介します。



保育所（園）職員としての自覚と 保育現場のこれから課題

社会福祉法人わかば会 わかば保育園

園長 山蔭 悦子氏

皆さんは、今、理想と現実戸惑ったり、仕事に自信が持てなかったり、いろいろな揺れ動きながら日々を過ごしているかもしれません。でも、子どもたちは満面の笑みで先生たちを待っています。保育は、子どもの育ちが実感できる、夢と希望のある仕事です。

保育士は、子どもの成長・発達を支える仕事です。発達は、「できないことができるようになること」と思つかもしれませんが、子どもが持ついろいろな可能性を、子ども自身が「できるよ」になりたい」と願い、自ら切り開いていくものではないでしょうか。発達的主人公は子どもです。一人ひとりの道筋は違うので、保育士として年齢ごとの発達の特徴を理解



しながらも、それに促されることなく、温かい目で、共感あふれる場で和やかに、子どもの心にチャネルを合わせることが大事にしたいものです。

保護者との関係では、共同で子どもを育てる仲間となり、対等で信頼感のある関係を築くことが大切です。同じ方向を向いて保育ができれば、子どもも安心して生活することができます。

また、保育士同士では、互いに評価し合うのではなく、対等に意見を言い合い、学び合い、支え合っていくことが大切です。ゆとりがないと保育は成り立ちません。おしゃべりの中から保育のヒントが生まれることもあります。大人にとっても、保育に関わる時間は幸せな時間であればなりません。

子どもの幸せのため、子どもの思いに寄り添うことを基本とし、保育士一人ひとりがゆとりを持って、語り合い、考え合い、調整し合い、検証し合いながら豊かな保育づくりをしていきましょう。

入職後3年目までは大変なことも多いと思います。でも、1年目に分らなかったことが2年目には大分分かり、3年目には先輩として自信を持って働き、5年目にはリーダーとして意見を言いながら働いていけるようになります。皆さんがずっと保育の現場に関わっていただけることを願っています。

職場の問題解決、 リアリティショックへの対応

盛岡大学文学部児童教育学科

教授 石川 悟司氏

リアリティショックとは、現実が理想とかけ離れていることに衝撃を受けることです。

保育において、その多くは「子ども」「職員」「保

護者」から発生し、要因はそれぞれ独立したものでなく、必ずどこかで関連し合っています。

例えば、保護者とのトラブルが発生したとき、職員間で励まし合い、支え合うことは多いですが、それがもたれ合い、愚痴り合いになると、親と子に対して置くこととなるおそれもあります。

また、入職してみたら、養成校で学んだ保育の大事な部分がおろそかにされている。何か違うと思っても、言い出すことができない。学んだことはいつしか理想形となり、職場の現実には埋没してしまう自分というのが、リアリティショックによる弊害の一つです。

リアリティショックは、周囲の肯定的な関心や共感があれば乗り切れると思うかもしれませんが、癒されただけでは乗り切ったことにはなりません。同じことの繰り返しになると、自分の適性を疑い、ショックに免疫がつくと保育に対する感覚が鈍化し、それらが積み重なると仕事へのモチベーション劣化につながります。リアリティショックの解決には、起きた事態を自分にとって意味のあるものにし、辛さとうき合い変換する能力が求められます。

同じ条件で物事を見ていても、価値判断は一人ひとりで違い、そこにはその人特有の物の感じ方、主観フィルターが働いています。それは、対象を理解しようとする行為の中に存在し、フィルターがスポンジなのかコンクリートなのかによって、対象への理解の仕方が変わってきます。また、理解しようとする事実の一つであっ



ても、見る角度によって異なった真実となる、各々の考えでその子を見ようとする。理解は違ってくる、このように「理解する（される）」ということ」は極めて感覚的な営みなのです。

皆さんの仕事における困難なことや悩みごとを見ると、感情面の悩みが総じて高くなっています。自分が

どう思われているかに対する恐れが強く、動き出す前に考え過ぎてはいないでしょうか。先輩や職場環境に対する悩みは、子どもとの関係よりも組織の中の自分の関係を重視しているように見え、子どもとの関わりに多い保育技術の悩みは、スキルを重視するあまり子どもが置き去りになっているようにも見えます。そもそも自分がここに理由は、職場でうまくやっていくためでも保育技術をあげるためでもなく、子どもと一緒にいたいという動機が一義的にあるはず。

自分はなぜこの業界に入り、どんな理想を掲げていたのか、どうしてこうなってしまったのか、自分への問い直しをしてほしいと思います。そこで、そういうことかと思ったとき、それが本当の意味でのリアリティショックだと思います。

リアリティショックをどう乗り越え、どう意味づけるか。ダメージの中から価値を見いだす鍵は、自分の主観フィルターのアップデートにあります。



なお、当日の参加者アンケートでは、「これからどのような思いをもって保育に関わっていくか、自分の中で考えることができた」「日々の保育の現場では、うまくいかないことも辛いこともあるけれど、それでも『子どもとて楽しい！』と素直に向き合えるような、そんな保育士になれるよう頑張っていきたい」などの感想が寄せられました。

インフォメーション

岩手県保育士・保育所支援センターは、岩手県福祉人材センター（無料職業紹介所）に併設し、潜在保育士を中心とした保育求人へのマッチング（本年9月末時点の採用人数62名）や、求人・求職に係る相談支援、情報提供などを行っています。

また、保育関係（新任保育士、潜在保育士等）の研修会やほくしカフェを開催しています。

まずは一度お気軽にご相談ください

岩手県保育士・保育所支援センター

〒020-0831

盛岡市三本柳 8-1-3 ふれあいランド岩手 2F
（岩手県福祉人材センター内）

TEL 019-637-4544 / 019-637-9605

コーディネーター 080-8201-8776 / 080-8200-1054

ホームページ <http://www.iwate-shakyo.or.jp/hoiku/>

利用時間 月曜日～金曜日、第2土曜日
9時～17時（祝日・年末年始休み）